



アーカイブ 14 年、国家の品格は？

2005 年=アーカイブ元年、2018 年=14 年

21 世紀に入り間もなく情報公開制度がスタートしてメディアによるこの制度利用が普及し始めたころだった。国民年金記録の管理が不十分であるという現状が取りざたされ、非現用公文書の永続的保存という視点が情報公開制度の彼方に見え隠れし始めたころ、日経新聞（松岡記者）の「アーカイブ零（ゼロ）年」連載記事が掲載された。国際資料研究所はこれに刺激された。そこで、この連載の翌年の 2005 年を国際資料研究所では「アーカイブ元年」と名づけた。

これを契機に時の流れの中で、「アーカイブ」がどのように社会的に浸透あるいは受容されていくのかを、年表形式でまとめてみたいと考え、本誌ではアーカイブ年表の掲載を始めた。これが、アーカイブ元年以来本誌が続けてきたアーカイブ年表である。

公文書は現用のためにこそ作成され、利用され、保管されるが、その後の行方に関心もたれることはほとんどなかった。この点を鋭く指摘したのがアーカイブ零年の連載記事であった。**公文書管理法の検討から成立へ**

折しもアーカイブ元年 2005 年夏、NIRA の公文書管理法制検討委員会が発足した。この委員会は 2007 年 2 月に報告書を取りまとめてその任を終えた。筆者もこの委員会のメンバーとして、文書管理の基本法の必要性を提唱した。この委員会の報告書は高橋滋他『公文書管理の法整備に向けて』（商事法務出版）として出版された。期を同じくして『公文書ルネッサンス』が出版され、2008 年には懇談会報告書がまとめられると、政府は公文書管理法の制定に向けて動きを活発化した。2009 年 7 月、公文書管理法は成立、2年後の 2011 年 4 月 1 日施行となった。

公文書管理法施行と 3.11

2011 年 4 月、公文書管理法が施行となった。その直前の 2011 年 3 月 11 日、東日本大震災により千葉県以北の太平洋側各地は、予想もしなかった大規模津波に見舞われ、福島第 1 原子力発電所は原子炉のメルトダウンが起きた。このメルトダウンの事実は直ちには公表されなかった。事故直後 NHK の解説委員の一人がメルトダウンを想起させる「きわめて深刻な事態」と述べたのがもっとも事実に近い表現だった。し

かし、恐ろしいことにこの解説委員はその発言後直ちに画面からその姿を消した。さらに不可解なのは、事故後 2 年ほど経過したころから、フクイチの出来事がメルトダウンであったことが、あたかも既定の事実として知られていることであるような論調で、マスメディアのなかで語られるようになったことである。国民はこの時、正確な事実を知らされることなく、当局者に騙されてしまった。

情報公開制度の浸透、公文書管理制度の浸透

2002 年に施行された情報公開制度により、ようやく政府の情報が何人へも原則公開されるようになったのに、東日本大震災によるフクイチ事故は、国民一般にはそのことを正確にしらされることがなかった。むしろ、この事故を国民に知らせない方向で、東京電力及び政治中枢が動いていたように思われる。そのため、東日本大震災に端を発するフクイチ事故は、よちよち歩きの日本の情報公開制度を亡き者にするような作用をもたらしたのかもしれない。

公文書と国家の品格

政治と行政が国民に真実を知らせなくなった 2011 年の 4 月、公文書管理法が施行された。このことは、将来、日本の情報公開状況が改善された時には注目する必要があるだろう。公文書管理法とは記録の作成と確実な管理、長期保存を目指そうとする制度である。この制度のもとで、政権に不都合な、それゆえ記録に残したくない様々な出来事が次々と惹起するのが 2011 年 3 月以降。他方情報公開制度は施行後約 10 年を経てマスコミや研究者らにとってはますますちかしく使い慣れた情報収集手段となって来ている。本稿は情報公開法施行から 16 年を経た 2018 年現在執筆中である。7 年前に施行された公文書管理制度には、昨今の政治社会状況に照らせば不備が目立つ。が、政府与党は公文書管理制度の不備を正すことには恐ろしく消極的だ。今、日本の公文書は改竄がまかり通っている。改竄後の公文書がアーカイブとして残され、後世にその恥をさらすことになるとしても、現政権は政権が持つ権限と影響力（と多分利権）をその手の中に温存することのみをめざしているようにしか見えない。今日本の国家の品格を問われたら赤面するほかはない。（小川千代子）

おもな内容

アーカイブ 14 年、国家の品格は?.....1
メモ・早川先生挨拶/文献紹介.....2

DJIR レポート No. 114 20180630

あしあと/消息/活動/公文書専門官の配置のニュース.....3
巻末随想 日本橋クルーズ他3件.....4

全史料協総会後の交流会でのご挨拶 by 早川和宏先生



撮影小川千代子

現用文書の問題というのは、アーカイブズにとっても追い風であると強く感じております。ただ、追い風を生かすかどうかは船乗りの仕事です。我々は多分船乗りだと思います。

風の動きに合わせて、帆をあわせながら頑張っていきたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本日はどうもお疲れ様でございました。

★2018年6月14日、岡山市で開催された全史料協総会後の交流会での早川氏スピーチ 録画による書き起し 小川千代子

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆●凶書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

■朝日新聞デジタル 福田元首相インタビュー

「記録残さなければヘイトも生む 福田元首相が抱く危機感」聞き手・高橋淳、倉重奈苗 2018年6月9日 05時00分

<https://www.asahi.com/articles/photo/AS20180608003391.html> 20180626 確認

高橋友佳理さんからのメールでテレビ番組を見た。その後同趣旨の記事が立て続けに目についた。テレビ番組では「私よりも妻の方が怒っています」という現状認識へのコメントと共に、公文書管理の罰則規定については消極的でありたいとする発言が印象に残った。公文書管理法を設けるには罰則なしでは実効性が担保できるわけがない、というのが筆者の考えであるが、福田康夫氏はこれを退けるのを良しとする考えを表明した。なぜ罰則なしなのか、是ばかりは福田氏から納得のいく説明は聞かれなかった。

■鳥取県公文書館関係規程集 平成29年度版

鳥取県では、公文書管理条例、公文書館条例をはじめとした多くの規程類を整備して、県公文書の管理制度を構築している。このことは、全史料協の役員である田中館長から

話を伺い、一度規程類を包括的に勉強したいと思い立った。そこで、鳥取県のHPから関連の規程類をピックアップしようとしたが、関係規程類の種類も数も多く、「素人」ではとても手に負えないことが分かった。そこで、規程類を体系的に理解できる資料があれば提供いただきたいと、厚かましくも直接鳥取県公文書館の田中館長にお願いしたところ、快く資料を供与してくださった。それが、この「鳥取県公文書館関係規程集」(写真)である。



全部で100頁超えの刊行物、内容だけでなく、目次が略称を一目瞭然としているところに感激した。鳥取県の皆様の素晴らしい編集に敬意を表します。

■生きる 相良 倫子

6月23日の沖縄全戦没者追悼式で、平和の詩を沖縄県浦添市立港川中学校3年 相良倫子さんが朗読された。式典で読上げられた自作の詩。参列者はじめこれに触れた多くの人に深い感銘を与えた。その直後の首相挨拶がどれほど空虚に聞こえたか。。。冒頭数行をここに引用紹介するが、ぜひ全文に触れていただきたい。下記 URL はご本人による全文朗読録画。



私は今は、生きている。
マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、
心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、
草の匂いを鼻孔に感じ、
遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きるこの島は、
何と美しい島だろう。

(後略)

<https://www.youtube.com/watch?v=cNVS7ctD1Gs&feature>
(2018.6.28 確認)

■映画「万引き家族」

そんなつもりでもなかったのだが、ニュースでも話題となったカンヌ映画祭受賞作を見てみたいと思い立ち、ネット検索したら近隣映画館で上映中。早速出かけて鑑賞した。面白かった。ストーリーと問題提起がなかなか素晴らしい。

出かけたのは6月8日の午前中、公開初日の初回で見ちゃったことに気付いたのは2週間くらいたってからだった。そのこと自体は私にとっての意味はなかったのだが、映画のメッセージには深く動かされた。で、家族にも強く鑑賞を勧めた。2週間ほどして「面白かった」という感想を聞いた。それくらい内容が深くてしみじみと感じるところが多かった。カンヌのバルムドール受賞の意味が何となく分かったような気がした。これから見ようかな、という皆様、ご鑑賞をぜひぜひオススメ申し上げます。



<http://gaga.ne.jp/manbiki-kazoku/> (2018.6.30 確認)

●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJI レポート No.114 20180630 2018年6月30日 up, 4p. PDF 国際資料研究所 www.djichiyoko.com
▼「海外アーカイブ・ボランティアの会の活動」
京都大学大学文書館だより No.34 2018.4.27 p.2-3
●国際機関におけるアーカイブ・ボランティア活

動 海外アーカイブ・ボランティアの会 10年のあゆみ 海外アーカイブ・ボランティアの会説明資料、2018.4.1 (未公開資料)

■東海岸三丁目町内会 組長&班長のしごと
2018.4.28 総会配布資料、藤沢

◇◆◇アーキビストの消息(順不同)◇◆◇ 【凡例：●個人■機関】

●照沼康孝氏 3月31日付文部科学省定年退職

☆本コーナーへの皆様のご協力に心からお礼申し上げます。

DJI国際資料研究所の主な活動 2018年4月1日～2018年6月25日

<発表>

4月28日 「組長班長のしごと」東海岸3丁目町内会総会、市民の家、藤沢市

5月19日 「記録管理学体系化の研究(その2)」記録管理学会大会、近畿大学、大阪

<出講>

4月12,19,26日、5月10,17,24,31日、6月7,21,24,28日「記録管理論」中央大学、八王子市、東京

<見学>

4月15日、6月3日 草間弥生展 松本市美術館、長野

4月23日 「和と洋が出会う博物館 共立女子大学コレクション・3」共立女子大学博物館 東京

6月4日 旧開智学校、司祭館 松本市、長野県

6月24日 寒川文書館、中央大学授業「記録管理論」、神奈川県寒川町、19名参加

<訪問>

5月24日 (株)カネカ東京本社、東京

<参加>

4月14日 学習院大学アーカイブズ学専攻歓迎会、東京

4月17日 千種台39会打合せ 有楽町さがみ、東京

4月23日 ライブラリー・レポート・フォーラム賞表彰式、東京

5月5日 七里ヶ浜およばれBBQ、鎌倉

5月17日 海外アーカイブ・ボランティアの会打合せ MIRA、天満、大阪

5月18,19日 記録管理学会大会 近畿大学 大阪

5月26日、6月23日 町内会役員会と夕涼みコンサート

5月27日 藤沢市ビーチクリーン、防災イベント、ゴミゼロキャンペーン、辻堂海岸ほか、藤沢

5月31日 真知子先生とお茶、立川

6月2日 ソフレ・ド・ブランシュ、Blanc de Blancs、湘南キューズ大使館、藤沢

6月12日 ビワ狩りと川崎大師・東京湾観音参詣 東海岸3丁目町内会バス旅行、千葉県及び川崎市

6月14日 全史料協役員会、岡山県立記録資料館、岡山市、岡山県

<主催>

6月13日 海外アーカイブ・ボランティアの会打合せ会、大阪大学博物館「坂」、待兼山キャンパス、池田市、大阪

<その他>

4月-6月 毎週右肩リハビリ、マリソル整形外科、

4月-6月 毎週火曜日午後【バンちゃん保育室】マゴとの時間、辻堂東海岸、藤沢、神奈川県

4月16日 小川村桜の花見 長野県

5月26日 弥生美術館、竹久夢二美術館、弥生式土器出土記念碑、東京大学本郷キャンパス散策

6月5日 日本橋クルーズ45分、[コース]日本橋船着場～日本橋川～豊海橋～隅田川～清洲橋Uターン～永代橋～中央大橋Uターン～豊海橋～日本橋船着場

6月8日 映画「万引き家族」鑑賞 TOHO シネマ辻堂

6月13日 中村貞夫展、大阪大学博物館、池田市、大阪

6月22日 愛美さんと「プーシキン美術館展一旅するフランス風景画」東京都美術館、上野、東京

6月24日 恵枝さんと旧交温める、茅ヶ崎、神奈川県

6月25日 恵子先生宅お呼ばれランチ、鮫洲、東京

2018.6.27
「公文書専門官」の
設置検討が
ニュースになった!



▶プレミアム会員感謝デー ファッションやグルメがお得 ▶ネット予約限定 牛角の人気メニューやドリンクが半額

動画 **NEWS** ニュース 経済 エンタメ スポーツ

1時10分更新
 ・交番襲撃 21歳の元自衛官逮捕 **NEWS**
 ・「公文書専門官」の設置検討 **NEWS** ←
 ・サウジ女性運転いまだ拘束も **NEWS**
 ・新型クラウン発表 LINEと連動 **NEWS**
 ・山田うどん 7月から屋号変更 **NEWS**
 ・RADに抗議 道交法違反で逮捕 **NEWS**
 ・ペルー 豪破り40年ぶり白星 **NEWS**
 ・仏とデンマーク0-0で決勝へ **NEWS**
 もっと見る トピックス一覧

絢子さまと婚約へ
6月26日22時52分配信
時事通信

例えば **Yahoo!ショッピング**で
 買い物すると...
Yahoo!カード 詳しくはこちら

こんにちは、kinbh220さん **W**
 [ログアウト] ログイン履歴 登録情報

新着なし 11ポイント カード新規入会

2018年6月27日(水)

■巻末随想

■日本橋クルーズ

[45 分コース]日本橋船着場～日本橋川～豊海橋～隅田川～清洲橋Uターン～永代橋～中央大橋Uターン～豊海橋～日本橋船着場



以前にモンゴルのアーカイブ見学でお世話になったスーレンさんと夫のガンバさんが来日した。そこで、折角だから一緒に東京見物をすることにした。東京駅八重洲北口から歩いて 10 分くらいのところに船着き場がある、ということも今回初めてきちんと把握した。これまでは日本橋なんて、忙しく通り過ぎるだけだったけど、その橋のたもとには立派な船着き場があるではないか。観光

地らしさも見て、東京新発見だった。クルーズ中は強い日差しが照りつけ、船備え付けの麦わら帽子のお世話になったのも楽しい思い出。いくつかの橋の写真は FB に掲載したら、失念した 2 つの橋の名前を熊本文学館長の服部英雄氏からご教示賜った。写真はその一つ。ガイドの説明によると、日本橋のアーチには関東大震災当時の船の火災の焦げ跡が今も残っていると。普段見慣れぬ川の側から眺める日本橋川と隅田川の周辺の景色は江戸から東京の今日までの時の流れをよく残していることを知った。面白かったので、みなさんにおすすめしたい。料金 ¥ 1500 円。

■記録管理学体系化に関する研究（その 2） 記録管理学会の研究プロジェクト 2017.9～2018.5

記録管理学会の研究助成により、2016 年度に続き 2017 年度もいわゆる【体系化】研究を継続している。2017 年度は 12 月、1 月、2 月と研究会を開催した。12 月はメンバーからの発表を聞き、1 月 2 月は事例研究のための見学会とヒアリング。地道な活動だと自認している。しかし、その傍らで世の中は公文書の管理をめぐる話題が沸騰してしまっただけで、2017 年 2 月の安倍首相発言が発端で、公文書の改竄が行われ、改竄後の資料が国会に提出されたいことが最近になってじりじりと明るみに出てきている。公文書、とりわけ完結文書の内容を、国会答弁に矛盾しないように改竄しちゃったという話だから、これは救い難い。財務省近畿財務局の担当者がこの作業を行ったうえ、命を落としたことも報じられている。日本の民主主義が根底から崩れた、といったコメントが出た。同感だ。去年の 2 月に国会で問題にされたところから、改竄後の資料に基づく国会論議が行われ、解散総選挙が行われたのだから、だまされればなしの一国民として怒り心頭である。

記録管理学体系化研究に戻ろう。記録はいったん確定したらその内容は未来永劫不変であることが条件だ。変更が加えられた場合、当該記録とは「別物」として扱われる。うん、体系化の土台として、こうした点をきちんと盛り込む必要がある。当たり前だと思っていたことを、改めて文

字にして記録化し、その位置づけを明確化することが必要なのだろう。

改めて考えさせられる。変更された記録からは、本来的な記録、確定した事実を記したモノとしての価値が失われる。そんな当たり前の「定理」ともいべき前提が踏みこじられてしまっただけで、役所も地に落ちたものである。

記録管理学会も、こういう時にこそ社会的提言なり発言なりをする必要があるはずだ。記録管理学体系化なんて、悠長なこと言っていないで、公文書のような正式記録が容易に改竄されないようにするための倫理的方法論をちゃんと考えなければいけないと思う。

■アーカイブボランティア活動向ワークショップ
Charity Archivists and Records Managers Group
アーカイブでボランティアやってみませんか
か？そういう人のために、アーカイブと記録にかかわるワークショップが企画されています。9 月 17 日、英国セックスの the Keep。主催は E S R。詳細はウェブサイトでご確認ください。参加申込みもできます。FB からの情報。
<https://www.eventbrite.co.uk/e/records-of-charities-and-voluntary-organisations-how-to-care-for-or-deposit-your-archives-and-tickets-46151749124>
(2018-06-26 確認)

■プーシキン美術館展—旅するフランス風景画

6 月 22 日に旧友と共に出かけた。上野の東京都美術館は、ちょっと混雑していたが、随所に休憩用のベンチが用意されていたのはとてもよかった。展示されているフランス風景画は、なぜか知っているものが次々と登場した。そのことでうれしくなって、熱心に見てしまった。もっとさらっと見学して、そのあと友達とのおしゃべりを楽しむつもりでいたのだが、気付いたら絵を見るのにエネルギーをつかいすぎてへくへくになってしまった。中でも熱心に見てしまったのが、実は絵画ではなく 1825 年のパリの地図。確かこの辺、と目で追っていくと、なんとなんと archives nationales の文字が建物のイラストとともに見つかった。近代文書館発祥の地、フランスのパリの国立文書館は、知識としては 1790 年頃の設置と心得ていたのだが、その少し後の時期の地図にちゃんと絵入りで表示されていることを発見して、アーカイブのオタクとしては有頂天になってしまった。傍らにいた友人に熱心に説明している自分が、なんか滑稽な気がしたのだが、説明を途中ではやめられなかった。そのためにかもしれないが、すっかりエネルギーを使い果たして館内の精養軒に飛び込んだ。

筆者にとって美術館見学では鑑賞のあとの食事やお茶とおしゃべりもとても大切な要素だから、充実したレストランが完備している東京都美術館は、大変よろしいところであった。さらに、ラウンジではカフェで購入した飲み物を持ち込んでゆっくり友人との会話を楽しめるというしつらえが、これまたとてもよかった。ふと見回すと、周辺には似たような年恰好のグループが幾組も、近況報告に打ち興じている様子。若い人は一人 PC に向き合っていた。

プーシキン美術館展、実に素敵な美術鑑賞の機会を楽しんだ。幸福な午後であった。(ち)

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 (電) ←電子バージョンのマーク! ISSN 1342-632X

DJILレポート DJIホームページ: <http://www.djichiyoko.com> No. 114 20180620

発行所: 国際資料研究所 Documenting Japan International Email: djiarchiv@yahoo.co.jp 代表 小川 千代子

〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 fax + phone 0466-31-5061